

たつの市定例記者会見資料	
発表年月日	令和8年9月7日（月）
担 当 課	教育事業部歴史文化財課
電 話	0791-75-5450

報道機関各位

室津海駅館・室津民俗館特別展 瀬戸内海の ^{めぐみ}恵 と ^{わざ}技 を開催

瀬戸内海を臨む御津町には、室津、岩見といった漁業の盛んな港町があります。近年はカキの名産地として知られていますが、養殖業のほかにも古くから網漁や釣漁など、さまざまな漁業が営まれてきました。

瀬戸内海の各地に受け継がれてきた漁労の技は、海とともに生きる人々の暮らしの知恵の結晶であり、地域の歴史や文化を今に伝える貴重な文化遺産です。

本展では、瀬戸内海の漁労に関する考古・歴史・民俗などの多彩な資料を展示し、豊かな漁労文化を育んだ瀬戸内海の恵と、それを生かしてきた人々の技、そして海と人との関わりについて紹介します。

記

- 開催期間** 令和8年10月10日（土）～11月23日（月・祝）
9時30分～17時（入館は16時30分まで）
- 休館日** 月曜日（祝日を除く）、10月13日（火）・14日（水）、
11月4日（水）
- 会場** たつの市立室津海駅館（たつの市御津町室津 457）
たつの市立室津民俗館（たつの市御津町室津 306）
- 入館料** 単館券 高校生以上 200 円、小・中学生 100 円
共通券 高校生以上 300 円、小・中学生 150 円
※ たつの市内の小・中学生は入館無料
※ 「関西文化の日」のため11月7日（土）・8日（日）は
入館無料

5 展示概要

I. 瀬戸内海^{あま}の海人たち

瀬戸内海で古くから多彩な漁労が営まれてきたことを紹介します。また船を住まいに海上で暮らした「家船」漁民についても紹介します。

- ★ 弥生時代のタコ壺や平安時代の土鍾（尼崎市立歴史博物館蔵）
- ★ 能地の「家船」関連資料（三原市歴史民俗資料館、幸崎小学校蔵）

II. 瀬戸内海の恵

古代から中世、都に運ばれ重宝された瀬戸内海の恵みや、江戸時代の書籍に記載され全国に広まった瀬戸内海の特産物などについて紹介します。また、海産物の加工や流通について紹介します。

- ★ イワシ漁に用いる漁具、加工や流通にかかわる道具（尼崎市立歴史博物館蔵、内海町文化財協会蔵ほか）

III. 瀬戸内海の技

タイ縛り網漁など、瀬戸内海で行われた勇壮な漁について紹介します。また、瀬戸内海を伝播した優れた漁法・漁具について紹介します。

- ★ 漁具の構造・使用法を色鮮やかに描いた「兵庫県漁具図解」（関西学院大学図書館蔵）
- ★ 勇壮なタイ網漁の様子と大漁の熱狂を描いた「網代日記」（個人蔵）

IV. 室津の漁業 いま・むかし

室津で行われた伝統的な漁労と今日の漁業について紹介します。

- ★ 室津の漁具、和船の部品（櫓、舵）など
- ★ ビデオ「室津の漁業」（1992年制作）ほか貴重な映像資料を上映

6 関連行事

①記念講演会「瀬戸内海の魚と漁業」

- ・ 講師 ^{わしお けいじ} 鷺尾 圭司 氏（元水産大学校理事長）

1952年京都市生まれ。京都大学大学院博士課程単位取得退学。専門は海の問題、漁業・漁食文化。1982年より林崎漁業協同組合職員。「イカナゴのくぎ煮」や「節分の恵方巻」の普及に携わる。2000年より京都精華大学教授、2009年より（独）水産大学校理事長。現在、日本伝統食品研究会顧問、(NP0)里海づくり研究会副理事長。

- ・ 日 時 11月1日（日）14時～15時30分
- ・ 定 員 30名（要申込・先着順）

②ギャラリートーク

- ・内 容 担当学芸員による展示解説
- ・日 時 (1) 10月17日(土) 14時～15時
(2) 11月7日(土) 14時～15時
- ・定 員 各回15名(要申込・先着順)

①・②共通事項

- ・参加費 無料(ただし入館料が必要)
- ・申込方法 海駅館窓口・電話、電子申請にて申込

7 主 催 たつの市教育委員会

8 企 画 室津海駅館・室津民俗館専門委員会

9 協 力 室津漁業協同組合

室津海駅館
室津民俗館
特別展

瀬戸内海の

恵と技

瀬戸内海の自然と
漁労の文化

2026年

10月10日(土)

→11月23日(月・祝)



(上写真) 室津のタイ縛り網漁具 たつの市教育委員会蔵
(背景写真) 『網代日記』中巻(部分) 天保5年(1834) 個人蔵

関連行事

① 記念講演会 瀬戸内海の魚と漁業

講師 鷲尾 圭司 氏(元水産大学校理事長)
日時 11月1日(日) 14時～15時30分
会場 たつの市立室津海駅館
定員 30名(先着順・要申込み)

② ギャラリートーク

内容 担当学芸員による展示解説
日時 (1) 10月17日(土) 14時～15時
(2) 11月7日(土) 14時～15時
集合 たつの市立室津海駅館
定員 各回15名(先着順・要申込み)

①・②共通事項

参加費 無料(ただし入館料が必要)
申込み 海駅館の窓口・電話・電子申請
電子申請は右の二次元コードから



開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
会場 たつの市立室津海駅館(たつの市御津町室津 457)
たつの市立室津民俗館(たつの市御津町室津 306)
休館日 月曜日(祝日をのぞく)、10月13・14日、11月4日
入館料 共通券 高校生以上 300円、小・中学生 150円
単館券 高校生以上 200円、小・中学生 100円
※ たつの市内の小・中学生は無料
※ 「ひょうごっこコロンカード」の提示で無料
※ 11月7日(土)・8日(日)は「関西文化の日」のため無料

たつの市立 室津海駅館

電話: (079)324-0595 メール: kaiekikan@city.tatsuno.lg.jp

主催 たつの市教育委員会 企画 室津海駅館・室津民俗館専門委員会 協力 室津漁業協同組合

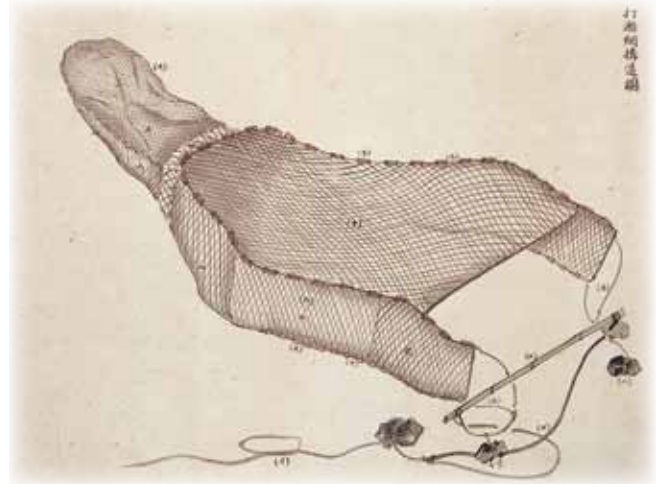
室津海駅館・室津民俗館 特別展
瀬戸内海の恵と技

瀬戸内海を臨むたつの市御津町には、室津、岩見といった漁業の盛んな港町があります。近年は、カキの名産地として知られていますが、養殖業のほかにも網漁や釣漁など四季を通してさまざまな漁業が営まれています。

平成4年（1992）、室津民俗館では特別展「漁業展」を開催し、変わりゆく室津の漁業について紹介しました。それから34年が経過し、瀬戸内海の漁業を取り巻く環境はさらに変化しました。ここ室津でも数多くの伝統的な漁法や漁具が姿を消しつつあります。

瀬戸内海の各地に受け継がれてきた漁労の技は、海とともに生きる人々の暮らしの知恵の結晶であり、地域の歴史や文化を今に伝える貴重な文化遺産です。本展では、瀬戸内海の漁労に関する考古・歴史・民俗などの多彩な資料を展示し、失われつつある漁労の技術とその歴史的・文化的価値をひもときます。

本展が、豊かな漁労文化を育んだ瀬戸内海の恵と、それを生かしてきた人々の技、そして海と人との関わりについて考える機会となれば幸いです。



『兵庫県漁具図解』明治30年（1897）関西学院大学図書館蔵
（上）播磨国 巻三 鰹地曳網使用図 揖保郡御津村之内岩見村
（下）摂津国 打瀬網構造図 川邊郡尼崎町



じびきあみ
地曳網のアバとオオダマ
内海町文化財協会蔵



うたせあみ
打瀬網のテンギ
内海町文化財協会蔵



ふなびきあみ
船曳網漁（イカナゴ）1992年撮影
たつの市教育委員会蔵



さしあみ
刺網漁（イワシ）撮影年月日不詳
個人蔵



きんちやくあみ
巾着網漁（アジ・サバ）1992年撮影 たつの市教育委員会蔵



たつの市立 室津海駅館

電話：(079)324-0595 メール：kaiekikan@city.tatsuno.lg.jp

